平成29年度（2017年度）日本留学試験

数　学（８０分）

【コース１(基本, Basic)・コース２(上級, Advanced)】

※　どちらかのコースを一つだけ選んで解答してください。

Ⅰ　試験全体に関する注意

1．係員の許可なしに，部屋の外に出ることはできません。
2．この問題冊子を持ち帰ることはできません。

Ⅱ　問題冊子に関する注意

1．試験開始の合図があるまで，この問題冊子の中を見ないでください。
2．試験開始の合図があったら，下の欄に，受験番号と名前を，受験票と同じように記入してください。
3．コース１は１～13ページ，コース２は15～27ページにあります。
4．足りないページがあったら，手をあげて知らせてください。
5．メモや計算などを書く場合は，問題冊子に書いてください。

Ⅲ　解答方法に関する注意

1．解答は，解答用紙に鉛筆（ＨＢ）で記入してください。
2．問題文中の**A**，**B**，**C**，… には，それぞれ－（マイナスの符号），または，０から９までの数が一つずつ入ります。あてはまるものを選び，解答用紙（マークシート）の対応する解答欄にマークしてください。
3．同一の問題文中に $\boxed{\textsf{A}}$，$\boxed{\textsf{BC}}$ などが繰り返し現れる場合，２度目以降は，$\boxed{\textsf{A}}$，$\boxed{\textsf{BC}}$ のように表しています。

解答に関する記入上の注意

(1)　根号（$\sqrt{\ }$）の中に現れる自然数が最小となる形で答えてください。
（例：$\sqrt{32}$ のときは，$2\sqrt{8}$ ではなく $4\sqrt{2}$ と答えます。）

(2)　分数を答えるときは，符号は分子につけ，既約分数（reduced fraction）にして答えてください。
（例：$\frac{2}{6}$ は $\frac{1}{3}$，$-\frac{2}{\sqrt{6}}$ は $\frac{-2\sqrt{6}}{6}$ と分母を有理化してから約分し，$\frac{-\sqrt{6}}{3}$ と答えます。）

(3)　$\dfrac{\boxed{\textsf{A}}\sqrt{\boxed{\textsf{B}}}}{\boxed{\textsf{C}}}$ に $\dfrac{-\sqrt{3}}{4}$ と答える場合は，下のようにマークしてください。

(4)　$\boxed{\textsf{DE}}\,x$ に $-x$ と答える場合は，**D**を－，**E**を１とし，下のようにマークしてください。

【解答用紙】

A	●	⓪	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
B	⊖	⓪	①	②	●	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
C	⊖	⓪	①	②	③	●	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
D	●	⓪	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
E	⊖	⓪	●	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨

4．解答用紙に書いてある注意事項も必ず読んでください。

※　試験開始の合図があったら，必ず受験番号と名前を記入してください。

受験番号			＊					＊					
名　前													

数学 コース 1

（基本コース）

（コース2は 15 ページからです）

「解答コース」記入方法

解答コースには「コース1」と「コース2」がありますので，どちらかのコースを一つだけ選んで解答してください。「コース1」を解答する場合は，右のように，解答用紙の「解答コース」の「コース1」を ○ で囲み，その下のマーク欄をマークしてください。

＜ 解答用紙記入例 ＞

解答コース Course	
コース 1 Course 1	コース 2 Course 2
●	○

選択したコースを正しくマークしないと，採点されません。

I

問 1　x の 2 次関数 $f(x) = 2x^2 + ax - 1$ は

$$f(-1) \geqq -3, \quad f(2) \geqq 3 \qquad \cdots\cdots\cdots \quad ①$$

を満たしている。このとき，$f(x)$ の最小値 m を考える。

(1)　m は a を用いて

$$m = -\frac{\boxed{\mathsf{A}}}{\boxed{\mathsf{B}}}a^2 - \boxed{\mathsf{C}}$$

と表される。

(2)　$f(x)$ が条件 ① を満たすような a の値の範囲は

$$\boxed{\mathsf{DE}} \leqq a \leqq \boxed{\mathsf{F}}$$

である。

(3)　m の値が最も大きくなるのは，$y = f(x)$ のグラフの軸が直線 $x = \boxed{\mathsf{G}}$ のときである。また，そのときの m の値は $\boxed{\mathsf{HI}}$ である。

(4)　m の値が最も小さくなるのは，$y = f(x)$ のグラフの軸が直線 $x = \boxed{\mathsf{JK}}$ のときである。また，そのときの m の値は $\boxed{\mathsf{LM}}$ である。

- 計算欄 (memo) -

問 2　平面上に三角形 ABC があって，1 個の球が頂点 A に置かれている。いま，1 個のサイコロを投げ，次の規則にしたがって球を動かす。

(i)　球が A にあるとき，出た目が 1 であれば B に動かし，その他の場合は A から動かさない。

(ii)　球が B にあるとき，出た目が 4 以下であれば C に動かし，その他の場合は B から動かさない。

ただし，球が C に到達すれば試行を止める。

このとき，サイコロを投げて，4 回以内に球が C に到達する確率を求めよう。

(1)　サイコロを投げて 2 回目に球が C に到達する確率は $\dfrac{1}{\boxed{\mathsf{N}}}$ である。

(2)　サイコロを投げて 3 回目に球が C に到達する確率は $\dfrac{\boxed{\mathsf{O}}}{\boxed{\mathsf{PQ}}}$ である。

(3)　サイコロを投げて 4 回目に球が C に到達する確率は $\dfrac{\boxed{\mathsf{RS}}}{\boxed{\mathsf{TUV}}}$ である。

以上から，4 回以内に球が C に到達する確率は $\dfrac{\boxed{\mathsf{WX}}}{\boxed{\mathsf{YZ}}}$ である。

注）サイコロ：dice，試行：trial

- 計算欄 (memo) -

$\boxed{\text{I}}$ の問題はこれで終わりです。

II

問 1　a, b は有理数，p は実数とする。$x = \dfrac{\sqrt{5}+3}{\sqrt{5}+2}$ を解にもつ 2 次方程式

$$x^2 + ax + b = 0 \qquad \cdots\cdots\cdots \quad ①$$

と不等式

$$x + 1 < 2x + p + 3 \qquad \cdots\cdots\cdots \quad ②$$

を考える。

(1)　a, b を求めよう。$x = \dfrac{\sqrt{5}+3}{\sqrt{5}+2}$ の分母を有理化して，$x = \sqrt{\boxed{\mathsf{A}}} - \boxed{\mathsf{B}}$ を得る。これが方程式 ① の解であるから，これを ① に代入して

$$-a + b + \boxed{\mathsf{C}} + (a - \boxed{\mathsf{D}})\sqrt{\boxed{\mathsf{E}}} = 0$$

を得る。したがって

$$a = \boxed{\mathsf{F}}, \quad b = \boxed{\mathsf{GH}}$$

である。

(2)　方程式 ① の 2 つの解が，どちらも不等式 ② を満たすような最小の整数 p を求めよう。

不等式 ② を解いて

$$x > -p - \boxed{\mathsf{I}}$$

を得る。方程式 ① の 2 つの解が，どちらもこれを満たすので

$$p > \sqrt{\boxed{\mathsf{J}}} - \boxed{\mathsf{K}}$$

である。したがって，最小の整数 p は $\boxed{\mathsf{L}}$ である。

注）有理数：rational number

- 計算欄 (memo) -

問 2　2 次関数

$$f(x) = \frac{3}{4}x^2 - 3x + 4$$

を考える。

a, b は $0 < a < b$ と $2 < b$ を満たす実数とする。このとき，関数 $y = f(x)$ の $a \leqq x \leqq b$ における値域が $a \leqq y \leqq b$ となるような a, b の値を求めよう。

$y = f(x)$ のグラフの軸の方程式が $x = \boxed{\mathsf{M}}$ であるから，次のように場合分けをする。

(i)　$\boxed{\mathsf{M}} \leqq a$

(ii)　$0 < a < \boxed{\mathsf{M}}$

(i) のとき，$f(x)$ の値は $a \leqq x \leqq b$ において，x とともに増加するから，$f(a) = a$，$f(b) = b$ となればよい。これらを解いて，$a = \dfrac{\boxed{\mathsf{N}}}{\boxed{\mathsf{O}}}$，$b = \boxed{\mathsf{P}}$ を得るが，この a は (i) を満たさない。

(ii) のとき，$f(x)$ の $a \leqq x \leqq b$ における最小値は $\boxed{\mathsf{Q}}$ であるから

$$a = \boxed{\mathsf{R}}$$

である。これは，(ii) を満たす。

このとき，$f(a) = \dfrac{\boxed{\mathsf{S}}}{\boxed{\mathsf{T}}} < b$ より，$f(b) = b$ である。よって

$$b = \boxed{\mathsf{U}}$$

を得る。

- 計算欄 (memo) -

$\boxed{\text{II}}$ の問題はこれで終わりです。$\boxed{\text{II}}$ の解答欄 $\boxed{\textbf{V}}$ ～ $\boxed{\textbf{Z}}$ はマークしないでください。

III

$1 < a < b < c < d$ を満たす 4 つの自然数 a, b, c, d を考える。これらの数から得られる 2 つの集合 $A = \{a, b, c, d\}$ と $B = \{a^2, b^2, c^2, d^2\}$ が次の 2 条件を満たすとする。

(i)　共通部分 $A \cap B$ に属する要素は 2 個あり，その和は 15 以上 25 以下である。

(ii)　和集合 $A \cup B$ に属するすべての要素の和は 300 以下である。

このとき，a, b, c, d の値を求めよう。

まず，$A \cap B = \{x, y\}$ とおく。ただし，$x < y$ とする。$x \in B$ かつ $y \in B$ であるから，(i) より $y =$ $\boxed{\mathbf{AB}}$ であり，x は $\boxed{\mathbf{C}}$，$\boxed{\mathbf{D}}$ のどちらかである。ただし，$\boxed{\mathrm{C}} < \boxed{\mathrm{D}}$ となるように答えなさい。ここで，(ii) を考慮すると，$x =$ $\boxed{\mathbf{E}}$ である。したがって，A は $\boxed{\mathbf{F}}$，$\boxed{\mathrm{F}}^2$，$\boxed{\mathrm{F}}^4$ を含む。

さらに，A に属する残りの要素を z とすると，z は (ii) より

$$z^2 + z \leqq \boxed{\mathbf{GH}}$$

を満たす。よって，$z =$ $\boxed{\mathbf{I}}$ である。

以上より

$$a = \boxed{\mathbf{J}},\quad b = \boxed{\mathbf{K}},\quad c = \boxed{\mathbf{L}},\quad d = \boxed{\mathbf{MN}}$$

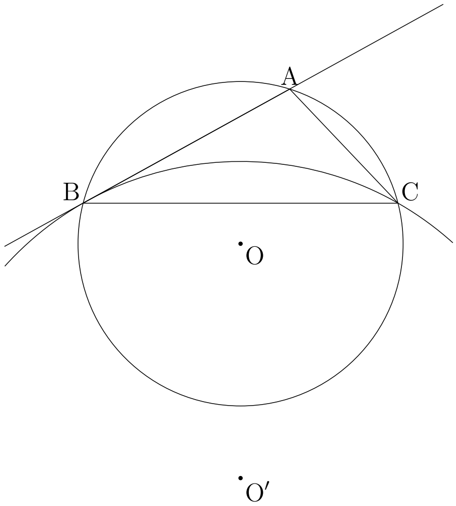
である。

- 計算欄 (memo) -

$\boxed{\text{III}}$ の問題はこれで終わりです。$\boxed{\text{III}}$ の解答欄 $\boxed{\textbf{O}}$ ～ $\boxed{\textbf{Z}}$ はマークしないでください。

IV

三角形 ABC の 3 辺の長さを $AB=6$, $BC=8$, $CA=4$ とする。2 点 B, C を通り，直線 AB に接する円の中心を O′ とし，三角形 ABC の外接円の中心を O とする。このとき，線分 OO′ の長さを求めよう。



(1)　$\cos\angle ABC = \dfrac{\boxed{\mathsf{A}}}{\boxed{\mathsf{B}}}$，$\sin\angle ABC = \dfrac{\sqrt{\boxed{\mathsf{CD}}}}{\boxed{\mathsf{E}}}$ である。

(2)　三角形 ABC の外接円の半径は $\dfrac{\boxed{\mathsf{FG}}\sqrt{\boxed{\mathsf{HI}}}}{\boxed{\mathsf{JK}}}$ である。

(3)　直線 OO′ と辺 BC との交点を D とすると

$$OD = \frac{\boxed{\mathsf{L}}\sqrt{\boxed{\mathsf{MN}}}}{\boxed{\mathsf{OP}}},\quad O'D = \frac{\boxed{\mathsf{QR}}\sqrt{\boxed{\mathsf{ST}}}}{\boxed{\mathsf{UV}}}$$

である。したがって，$OO' = \dfrac{\boxed{\mathsf{W}}\sqrt{\boxed{\mathsf{XY}}}}{\boxed{\mathsf{Z}}}$ である。

注）外接円：circumscribed circle

- 計算欄 (memo) -

$\boxed{\mathrm{IV}}$ の問題はこれで終わりです。

コース 1 の問題はこれですべて終わりです。解答用紙の $\boxed{\mathrm{V}}$ はマークしないでください。

解答用紙の解答コース欄に「コース 1」が正しくマークしてあるか，
もう一度確かめてください。

この問題冊子を持ち帰ることはできません。

数学 コース 2
（上級コース）

「解答コース」記入方法

解答コースには「コース1」と「コース2」がありますので，どちらかのコースを一つだけ選んで解答してください。「コース2」を解答する場合は，右のように，解答用紙の「解答コース」の「コース2」を ○ で囲み，その下のマーク欄をマークしてください。

＜ 解答用紙記入例 ＞

解答コース Course	
コース 1 Course 1	コース 2 Course 2
○	●

選択したコースを正しくマークしないと，採点されません。

I

問 1　x の 2 次関数 $f(x) = 2x^2 + ax - 1$ は

$$f(-1) \geqq -3, \quad f(2) \geqq 3 \qquad \cdots\cdots\cdots \quad ①$$

を満たしている。このとき，$f(x)$ の最小値 m を考える。

(1)　m は a を用いて

$$m = -\frac{\boxed{\mathsf{A}}}{\boxed{\mathsf{B}}}a^2 - \boxed{\mathsf{C}}$$

と表される。

(2)　$f(x)$ が条件 ① を満たすような a の値の範囲は

$$\boxed{\mathsf{DE}} \leqq a \leqq \boxed{\mathsf{F}}$$

である。

(3)　m の値が最も大きくなるのは，$y = f(x)$ のグラフの軸が直線 $x = \boxed{\mathsf{G}}$ のときである。また，そのときの m の値は $\boxed{\mathsf{HI}}$ である。

(4)　m の値が最も小さくなるのは，$y = f(x)$ のグラフの軸が直線 $x = \boxed{\mathsf{JK}}$ のときである。また，そのときの m の値は $\boxed{\mathsf{LM}}$ である。

- 計算欄 (memo) -

問 2　平面上に三角形 ABC があって，1 個の球が頂点 A に置かれている。いま，1 個のサイコロを投げ，次の規則にしたがって球を動かす。

(i)　球が A にあるとき，出た目が 1 であれば B に動かし，その他の場合は A から動かさない。

(ii)　球が B にあるとき，出た目が 4 以下であれば C に動かし，その他の場合は B から動かさない。

ただし，球が C に到達すれば試行を止める。

このとき，サイコロを投げて，4 回以内に球が C に到達する確率を求めよう。

(1)　サイコロを投げて 2 回目に球が C に到達する確率は $\dfrac{1}{\boxed{\mathsf{N}}}$ である。

(2)　サイコロを投げて 3 回目に球が C に到達する確率は $\dfrac{\boxed{\mathsf{O}}}{\boxed{\mathsf{PQ}}}$ である。

(3)　サイコロを投げて 4 回目に球が C に到達する確率は $\dfrac{\boxed{\mathsf{RS}}}{\boxed{\mathsf{TUV}}}$ である。

以上から，4 回以内に球が C に到達する確率は $\dfrac{\boxed{\mathsf{WX}}}{\boxed{\mathsf{YZ}}}$ である。

注）サイコロ：dice，試行：trial

- 計算欄 (memo) -

$\boxed{\text{I}}$ の問題はこれで終わりです。

II

問 1　漸化式

$$a_1 = 18, \quad a_{n+1} - 12a_n + 3^{n+2} = 0 \quad (n = 1, 2, 3, \cdots)$$

で定まる数列 $\{a_n\}$ の一般項を求めよう。

数列 $\{b_n\}$ を

$$b_n = \frac{a_n}{\boxed{\mathbf{A}}^{\,n}} \quad (n = 1, 2, 3, \cdots)$$

と定めると，$\{b_n\}$ は

$$b_1 = \boxed{\mathbf{B}}, \quad b_{n+1} - \boxed{\mathbf{C}}\, b_n + \boxed{\mathbf{D}} = 0 \quad (n = 1, 2, 3, \cdots)$$

を満たす。この漸化式は

$$b_{n+1} - \boxed{\mathbf{E}} = \boxed{\mathbf{F}}\left(b_n - \boxed{\mathrm{E}}\right)$$

と変形できる。ここで，数列 $\{c_n\}$ を

$$c_n = b_n - \boxed{\mathrm{E}} \quad (n = 1, 2, 3, \cdots)$$

と定めると，$\{c_n\}$ は初項 $\boxed{\mathbf{G}}$，公比 $\boxed{\mathbf{H}}$ の等比数列である。

したがって

$$a_n = \boxed{\mathbf{I}}^{\,n}\left(\boxed{\mathbf{J}} \cdot \boxed{\mathbf{K}}^{\,n-1} + \boxed{\mathbf{L}}\right) \quad (n = 1, 2, 3, \cdots)$$

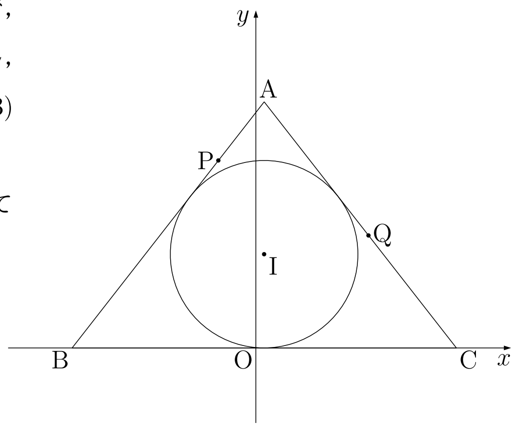
である。

注）漸化式：recurrence formula，公比：common ratio，等比数列：geometric progression

- 計算欄 (memo) -

問 2　右図のような，原点を O とする xy 平面上で，AB = AC の二等辺三角形 ABC を考える。ただし，辺 AB は点 P$(-1, 5)$ を通り，辺 AC は点 Q$(3, 3)$ を通るものとする。

このとき，三角形 ABC の内接円の半径について考えよう。



2 点 A, B を通る直線を ℓ_1 とし，2 点 A, C を通る直線を ℓ_2 とする。ℓ_1 の傾きを a とすると，ℓ_1, ℓ_2 の方程式は

$$\ell_1:\ \ y = ax + a + \boxed{\mathbf{M}}$$

$$\ell_2:\ \ y = -ax + \boxed{\mathbf{N}}\,a + \boxed{\mathbf{O}}$$

である。

また，内接円の中心を I とおき，半径を r とおくと，I の座標は $\left(\boxed{\mathbf{P}} - \dfrac{\boxed{\mathbf{Q}}}{a},\ r\right)$ である。

したがって，r は a を用いて

$$r = \frac{\boxed{\mathbf{R}}\,a + \boxed{\mathbf{S}}}{\boxed{\mathbf{T}} + \sqrt{a^2 + \boxed{\mathbf{U}}}}$$

と表される。

特に，$r = \dfrac{5}{2}$ のとき，頂点 A の座標は $\left(\dfrac{\boxed{\mathbf{V}}}{\boxed{\mathbf{W}}},\ \dfrac{\boxed{\mathbf{XY}}}{\boxed{\mathbf{Z}}}\right)$ である。

注）内接円：inscribed circle

- 計算欄 (memo) -

$\boxed{\text{II}}$ の問題はこれで終わりです。

III

すべての正の実数 x に対して，不等式

$$\frac{\log 3x}{4x+1} \leqq \log\left(\frac{2kx}{4x+1}\right) \qquad \cdots\cdots\cdots \quad ①$$

が成り立つような正の実数 k の値の範囲を求めよう。ただし，$\log$ は自然対数とする。

(1)　次の文中の $\boxed{\textbf{A}}$，$\boxed{\textbf{B}}$ には，下の選択肢 ⓪ ～ ⑧ の中から適するものを選びなさい。

不等式 ① を変形して

$$\log k \geqq \boxed{\textbf{A}} \qquad \cdots\cdots\cdots \quad ②$$

を得る。

ここで，② の右辺を $g(x)$ とおき，$g(x)$ を x で微分すると

$$g'(x) = \boxed{\textbf{B}}$$

である。

⓪ $\dfrac{\log 3x}{4x+1} - \log(4x+1) - \log 2x$

① $\dfrac{\log 3x}{4x+1} - \log(4x+1) + \log 2x$

② $\dfrac{\log 3x}{4x+1} + \log(4x+1) + \log 2x$

③ $\dfrac{\log 3x}{4x+1} + \log(4x+1) - \log 2x$

④ $\dfrac{4\log 3x}{(4x+1)^2}$

⑤ $\dfrac{3x+2+\log 3x}{(4x+1)^2}$

⑥ $-\dfrac{4\log 3x}{(4x+1)^2}$

⑦ $\dfrac{3x-2-\log 2x}{(4x+1)^2}$

⑧ $-\dfrac{3\log 2x}{(4x+1)^2}$

（III は次ページに続く）

注）自然対数：natural logarithm

(2)　次の文中の $\boxed{\mathbf{E}}$，$\boxed{\mathbf{F}}$，$\boxed{\mathbf{G}}$ には，下の選択肢 ⓪ ～ ③ の中から適するものを選び，他の $\boxed{}$ には適する数を入れなさい。

$g(x)$ は区間 $0 < x < \dfrac{\boxed{\mathbf{C}}}{\boxed{\mathbf{D}}}$ で $\boxed{\mathbf{E}}$ し，また，区間 $\dfrac{\boxed{\mathrm{C}}}{\boxed{\mathrm{D}}} < x$ で $\boxed{\mathbf{F}}$ する。よって，$g(x)$ は $x = \dfrac{\boxed{\mathrm{C}}}{\boxed{\mathrm{D}}}$ で $\boxed{\mathbf{G}}$ になる。

したがって，すべての正の実数 x に対して不等式 ① が成り立つような k の値の範囲は

$$k \geqq \frac{\boxed{\mathbf{H}}}{\boxed{\mathbf{I}}}$$

である。

⓪　増加　　①　減少　　②　最大　　③　最小

$\boxed{\mathrm{III}}$ の問題はこれで終わりです。$\boxed{\mathrm{III}}$ の解答欄 $\boxed{\mathbf{J}}$ ～ $\boxed{\mathbf{Z}}$ はマークしないでください。

$\boxed{\text{IV}}$

次の 2 つの曲線を考える。

$$x^2+y^2=1 \quad \cdots\cdots\cdots \quad ①$$
$$4xy=1 \quad \cdots\cdots\cdots \quad ②$$

ただし，$x>0$，$y>0$ とする。このとき，曲線 ① と曲線 ② で囲まれる部分の面積 S を求めよう。

(1)　まず，曲線 ① と曲線 ② の交点を P, Q，それらの x 座標をそれぞれ p, q $(p<q)$ とする。

曲線 ① と曲線 ② の交点の座標 (x,y) は，① より，$x=\cos\theta$，$y=\sin\theta$ $\left(0<\theta<\dfrac{\pi}{2}\right)$ とおける。このとき，② より

$$\sin \boxed{\text{A}}\,\theta = \frac{\boxed{\text{B}}}{\boxed{\text{C}}}$$

となる。これより

$$\theta = \frac{\boxed{\text{D}}}{\boxed{\text{EF}}}\pi, \quad \frac{\boxed{\text{G}}}{\boxed{\text{HI}}}\pi$$

となる。ただし，$\dfrac{\boxed{\text{D}}}{\boxed{\text{EF}}} < \dfrac{\boxed{\text{G}}}{\boxed{\text{HI}}}$ となるように答えなさい。

よって

$$p=\cos\frac{\boxed{\text{J}}}{\boxed{\text{KL}}}\pi, \quad q=\cos\frac{\boxed{\text{M}}}{\boxed{\text{NO}}}\pi$$

を得る。

（IV は次ページに続く）

(2)　S の値を求めよう。

$$S = \int_p^q \left(\sqrt{1-x^2} - \frac{1}{4x}\right) dx$$

であるから

$$I = \int_p^q \sqrt{1-x^2}\, dx, \quad J = \int_p^q \frac{1}{x}\, dx$$

の値を求めればよい。

I については，$x = \cos\theta$ とおいて置換積分の計算をすると

$$I = \frac{\boxed{\mathbf{P}}}{\boxed{\mathbf{Q}}}\pi$$

となる。また

$$J = \log\left(\boxed{\mathbf{R}} + \sqrt{\boxed{\mathbf{S}}}\right)$$

である。ただし，log は自然対数である。

以上より

$$S = \frac{\boxed{\mathrm{P}}}{\boxed{\mathrm{Q}}}\pi - \frac{\boxed{\mathbf{T}}}{\boxed{\mathbf{U}}}\log\left(\boxed{\mathrm{R}} + \sqrt{\boxed{\mathrm{S}}}\right)$$

となる。

注）置換積分：integration by substitution，自然対数：natural logarithm

$\boxed{\mathrm{IV}}$ の問題はこれで終わりです。$\boxed{\mathrm{IV}}$ の解答欄 $\boxed{\mathbf{V}}$ ～ $\boxed{\mathbf{Z}}$ はマークしないでください。

コース 2 の問題はこれですべて終わりです。解答用紙の $\boxed{\mathrm{V}}$ はマークしないでください。

解答用紙の解答コース欄に「コース 2」が正しくマークしてあるか，
もう一度確かめてください。

この問題冊子を持ち帰ることはできません。